

■とよなかユネスコ・スクール、海外から教育実習生を受け入れる！

ニュージーランドのカンタベリー大学教育学部学生6名が教員免許取得を目的に、日本とNZの教育制度の比較研究を行うため、平成24年10月6日(日)～12日(金)の期間、本市ユネスコスクールのうち上野小学校で教育実習を行いました。今回の取組みは、本市教育委員会と園田学園女子大学との協定関係において、NZカンタベリー大学の依頼を受け、初の試みとして実施したものです。6名の学生は、運動会や配属された学年を中心に各教科、道徳、外国語活動等の授業に参加し、授業の進め方やディスカッションの仕方、教員と児童の関係づくりや支援教育の取組み等について学びました。また一方で、実習生が、総合的な学習の時間のコマを担当し、マオリ族の工芸画や国鳥のキウィなど伝統文化をはじめ、NZの主要都市について、自作の教材を活用しながら児童に紹介しました。

本プログラム実施期間中、児童は、日本語が通じない相手とどう接すればよいかを考えたり、外国語活動で学んだ挨拶の仕方を知っている言葉で積極的にコミュニケーションをとろうとしたりしていました。これまで学校が進めてきた国際教育の取組みの成果を試す良い機会となったようです。学生は、帰国後、教育実習で学んだことを研究論文にまとめ、学内関係者や校長、地域関係者へプレゼンテーションし評価を仰ぐことになっているとのことです。次年度も継続した受け入れを検討中です。



1. [実習生の感想]

指導する先生が丁寧な質問と教材準備をしている点、NZの授業ではあまりないので勉強になりました。道徳や国語の「ごんぎつね」の授業の進め方は、興味深かったです。また、学校でチーム分けした運動会はNZにはなく、日本らしい文化を取り入れた種目が楽しかったです。取り入れたいことばかりでとても有意義でした。

■第二中学校 10月23日(土) 「豊中市北部ブロック第40回PTA研究大会」開催

テーマ「私たちが東日本大震災から学び、これから考えなければならないこと」

ユネスコスクールの宮城県気仙沼市立松岩州学校の榎木校長が来校され、「被災から希望へ」について基調講演がありました。

東日本大震災が発生した当時の子どもたちや学校、地域の様子について映像を交えてお話を伺うことができました。未曾有の大震災から1年7ヵ月が経過しましたが、その間の子どもの心の変化や、保護者の気持ち、学校の取組みなどを直接お聞きしました。松岩中学校は現在も校庭に仮設住宅が建っている厳しい状況です。マスコミ報道も少なくなる中で、私たちが再度東日本大震災のことを考える機会をいただきました。

■NZノースロバーンスクール&桜井谷小交流

ノースロバーンスクール校長が全児童に向け講話

10月18日(木)8:30～体育館で交流授業を行いました。ノースロバーンスクールは、8年生までであることや学校周辺は牧場が広がり、馬に乗って登校する児童がいることや、ランチ後は、持参したホームメイドのスイーツが食べられること、授業スタイルは主にテーマにそって小グループによるディスカッションをおこなうことが多いなどというお話がありました。桜井谷小の児童は、美しい景色とともに同年代の子どもが活動する写真等をみながら歓声をあげながら講話に聞き入っていました。

6年3組が外国語活動の時間に交流学習実施

11月9日(金)2限目 9:30～10:20

桜井谷小学校の児童が、NZの学校生活や文化、いま流行っている遊びなどについて一人ずつ英語で質問しました。桜「家では何を飼っていますか？」N「馬、羊、アルパカ・・・」桜「馬はいくらで買えますか？」N「約5万円です」N「『江南スタイル』のMVは流行っていますか？踊ってみてください(馬ダンス)」桜「しらなーい」N児童は質問しながら踊っていました。陽気です！

最初は英語が通じるか不安でしたが、いろんな質問が飛び交ううちにだんだんと打ち解けていくようでした。驚いたことにNZの児童は、日本語で返事をする場面もありました。

■新田小学校運動会にフレンドシップスクール校長参加

9月29日(土)新田小学校とフレンドシップスクール提携をしているNZ オホカスクールの校長先生が出席しました。NZには運動会はなく、学校対抗のスポーツ大会があり、日本のように学校内で紅白対抗のシステムや団体演技・競技はないとのことで、児童の演技・競技等種目の一つ一つを興味深く見学されました。特に組体操は、表現する児童と観戦する他学年児童や保護者、教員等が一体となり、6年生は仲間と気持ちを一つに真剣にウェーブや扇、塔、等の技に挑戦しました。そしてクライマックスのピラミッド等、児童全員で創りだす技に、とても感動したと話していました。



■子どもによる世界遺産学習発表会 in 奈良 第十一中生徒発表 平成25年1月28日(日)

世界遺産学習に取り組んできた子どもたちが、学習過程で何を考え、何を学んだかを、発表することにより、サミットに参加している多くの人に世界遺産をはじめ地域の文化や自然を守る大切さを伝える機会です。世界遺産や地域遺産、伝統文化、自然環境などを通して、それらを尊重する態度や地域を誇りに思う心情を養うことを目的としています。また、環境教育、国際理解教育、平和教育、人権教育など多様な学習に取組み、現代的な諸課題に対応しようとする未来の担い手を育てるために進めています。各学校長あてに開催案内を送りますのでご参加いただけますようお願いいたします。

通訳者等サポートいただいた方々の感想

今回は秋晴れの中、上野小の元気で活発な子供達と異文化交流の一端に参加させて戴きましたが、市教委担当者からのきめ細かい私達へのメールやtelでの schedule 調整の下、私達も安心して仕事に入れました。外国からの教育実習は、初めての試みと聞きましたがNew Zealandの学生たちが日本の学校教育の現場体験で素直に感じ、思った事を話してくれた事は私にとっても、日頃、疑問に感じている世界の中での日本の教育の在り方について一石を投じてくれたのも確かです。国語科「ごんぎつね」の授業で担任の先生は、ごんの独り言の中からごんの感情の変化を読み取るように、またそれを読み取る一つの方法として絵の独り言を教科書より抽出してバラバラにし示し、児童に整理させたのですが、Emilyは、少し困惑したようでした。私が「New Zealandではこの様な授業はないのですか？」と聞くと彼女は丁寧に自国の小学校の一日の時間割を書いてくれ、特に国語に関しては専ら文章を読んで自分の考えを書き、発表し、且つグループに別れディベートに重点が置かれると補足してくれました。勿論、午前中にはspeaking, readingの授業はあるが、日本はstructuredであり、自国にはこの様な授業はないと話してくれました。ただ先生が非常に決め細やかに、皆が理解し易い様に、教材を準備される努力をととても良い事だと褒めていました。道徳の時間でもEmmaは「New Zealandではこの様な授業はありません。」と言っていました。一つの項目について全員が解るようにいつも先生の方からたくさんの質問が投げかけられる事に最初、「なぜ?」「何をしているの?」という質問が結構来ました。当然、最後は元気な子供達と共にclearlyにhappilyに授業は終わりましたが、私もEmmaも最初どの様に授業が展開されるのか緊張していた事は確かでした。

今、世界は本当に狭くなりました。そして一国での出来事はその影響力の差はあれ私達の明日の生活に及ぼすのにそう時間差はなくなってまいりました。今の子供達はこの先、どんどん世界に出て行かなくてはならない時代にきています。地球人の一人として、短かったですが他の国の人と違和感なく接触できた事、肌で感じた事はこれから彼らが多くの事を修めていく上でとても良い刺激になったように感じました。彼らの素直な心が、自分で物事を考え、構築し、他の人達とのdiscussionにおいて多くの人とより良き関係が築ける訓練となります様に願っています。豊中市がユネスコ教育の一環として情熱を持って今回取り組まれた事を大阪のたくさんの学校にも知って戴きたいなと思っております。

■国際教育研修会 10月29日(月) 豊中市教育センター

ライフコーチのケイラー・ジョエルさんから『アメリカンスクールライフと豊中市の学校教育～育てたい生きる力 共生することとは～』について、上野小学校中木常雄校長と門脇順子教諭から『今こそ取り組みたい国際教育！海外校との協働授業の実践』について、お話がありました。

グローバル化する国際社会では、教育制度や文化の違いを超えて、共生し協働していかなければなりません。この様な視点から、上野小のフレンドシップスクール間の協働授業は、環境も文化も言語も違う国の子どもや教員同士がつながり、目的を一つに知恵を出し合いながら課題解決に向け行動化を試みようとする取組みでした。これからは、国際教育をカリキュラムに位置付けるなどして、日頃の教科学習等で実践されることが重要だと思います。国際化のなかにあって、協働授業が日常的に行われることで、子どもたちに国際人としての素地が培われるのではないかと思います。大きな視野で物事をとらえて自分の意見をしっかりと、さまざまな国や立場の人たちと考えを練り合わせる力は、これから最も必要とされる力ではないでしょうか。

【受講者の感想から一部抜粋】

- ケイラー講師の具体的なお話のひとつひとつが貴重な体験があってこそのもので、とても心に残りました。子どもたちの将来、地球の未来につながる大きなお話ですが、一步一步、今できることの先にあることですね。すごい仕事をしているかも、と改めて思わせていただきました。
- 国際教育とは何か今日の研修でよくわかりました。上野小で特別に・・・というだけではなく、将来に向け、各学校が取り組んでいかなければいけないのだと、身のひきしまる研修内容でした。